

平成27年度

直方市決算要点紹介

平成27年度の市の決算が次の表のとおり議会で承認され、確定しました。
その内容について、ご紹介します。



直方市の
台所事情を
チェック
してみよう

問い合わせ
財政課財政係
(TEL 25-2231)

1 1 まずは基本から… 平成27年度も実質収支は 黒字となりました

平成27年度は、一般会計(※1)の歳入総額が約248億円、歳出総額が約243億1千万円、収入から支出を差し引いた収支(形式収支)は約4億9千万円の黒字です。
これから平成28年度に繰り越して行うことになった事業に要する経費を除いた収支(実質収支)では、約3億8千万円の黒字決算です。
前年度に引き続き、財源調整のために基金を取り崩すことなく、本来の意味での黒字決算を6年連続で達成しました。
平成25、26年度においては、単年度で見た場合の収支は赤字であり、

前年度から繰り越してきた黒字額(繰越金)の一部を使つての黒字決算でしたが、平成27年度は単年度で見た場合の収支(実質単年度収支)でも、約3億2千万円の黒字決算となり収支が改善されました。
しかしながら、本市の歳入の中身を見ると、地方交付税、国県支出金、市債といった国等に依存するものが約6割を占め、市税等の自主的に確保できる財源の割合は、全体の約4割弱にとどまっています。

黒字の要因としても、消費税率の改正に伴う地方消費税交付金の増加や過去の大型事業実施に伴う償還金の返済完了により公債費が減少したことが大きな要因であり、市税等をはじめとする自主財源の増によるものではないことから、市の財政が黒字体質に転換したとは言えず、依然とし

2 2 気になる貯金(基金)と 借金(市債)の残高は 貯金は横ばい・借金は減少

平成27年度末時点での基金(貯金)と市債(借金)の残高の推移は左図グラフ②、グラフ③のようになります。
基金残高は約43億7千万円、このうち一般会計分は約42億4千万円、一般会計分の中でも使いみちが特定されていない財源の調整に使える基金は、約30億8千万円です。
前年度に比べて、市の基金残高は7千3百万円増加しました。

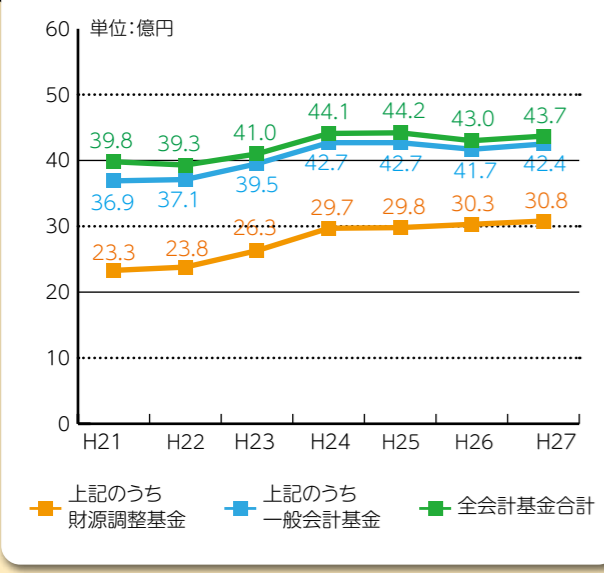
次に市の借金である市債残高は、一般会計とその他特別会計も含めた総額で約337億円となり、前年度に比べて約2億5千万円減となっています。

市債残高の内訳は、一般会計で約212億円(前年度より約2億5千万円の減)で、特別会計では、公共下水道事業で約111億円(前年度より約1億4千万円の増)、農業集落排水事業特別会計で約7億4千万円(前年度より約5千万円の減)、上頓野産業団地造成事業で約6億5千万円(前年度より約8千万円の減)

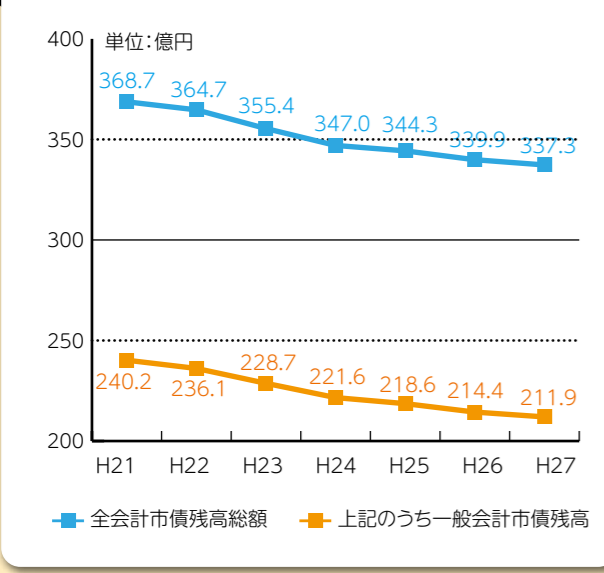
となり、この3事業が特別会計分のほとんどを占めています。



基金残高の変化 グラフ②



市債残高の変化 グラフ③



各種財政指標の推移 グラフ④

